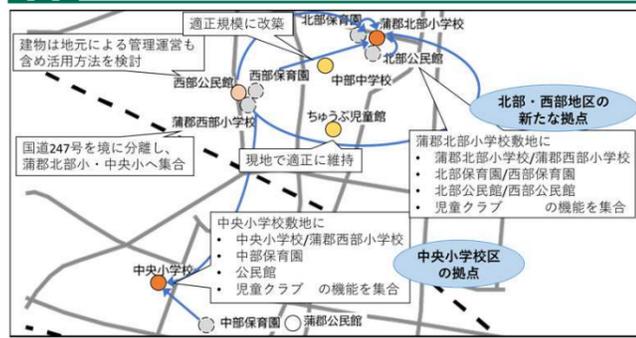


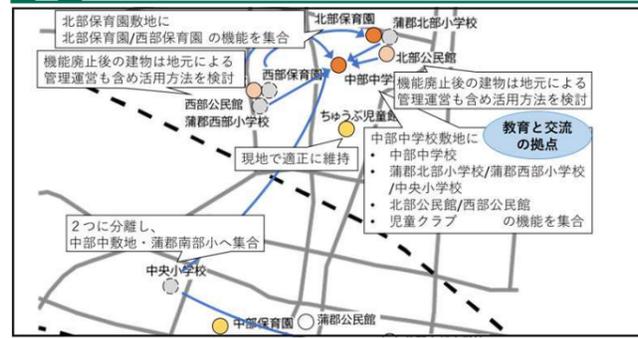
蒲郡北地区の再配置プラン案

以下の7つの再配置プランについて検討を行っています。今後、今回議論した評価項目等をふまえてプランの絞り込みを行う予定です。

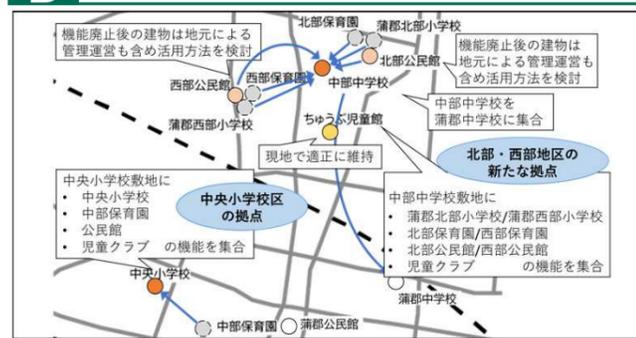
A 通学の安全を確保し、学校規模の適正化を図るプラン



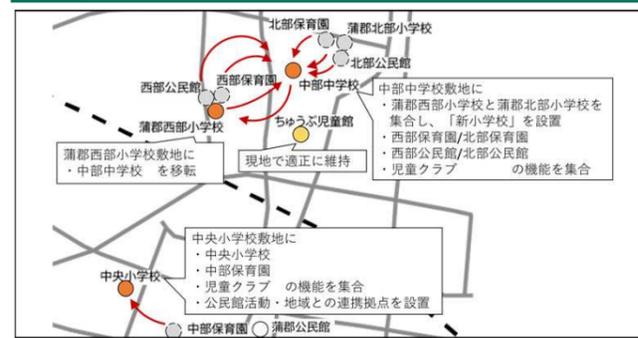
E 充実した教育の拠点と世代間交流の場を作るプラン



B 北部地区と西部地区の新たな交流拠点をつくるプラン



F 規模適正化方針Aプランをもとに作成したプラン



C 地域の交流拠点をつくるプラン



G 規模適正化方針Bプランをもとに作成したプラン



D 地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン



ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **蒲郡北地区のまちづくりや公共施設について**

以下のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。ご住所、お名前、年齢、連絡先をご記載ください。

次回ワークショップについて

日時：12月26日（日）
午後1時30分～午後4時30分
内容：再配置プラン案の絞り込み

中部中学校にて傍聴ができます。ご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。
 （新型コロナウイルス感染症の状況により傍聴を中止する場合がありますのでご了承ください。）

お問い合わせ先

蒲都市総務部公共施設マネジメント課
 〒443-8601 蒲都市旭町17番1号
 E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp
 TEL 0533-66-1214 / FAX 0533-66-1183

詳しくはHPをご覧ください。
 （右のQRコード、または市HP 記事ID「0205697」で検索）

蒲郡北地区 かわら版 第6号

蒲郡北地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

蒲都市では、今後進む人口減少・少子高齢化による社会情勢の変化を見据え、公共施設の維持更新費用により将来に大きな負担を残さないため、「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで地区内の公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来のあり方について皆さまに考えていただく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。今回は10月31日（日）に開催した第5回ワークショップの様子をお伝えします。

ワークショップで話し合われている内容等について地域の皆さまからのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さまと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲都市は、このワークショップでのご意見をはじめ、地区の皆さまのご意見を踏まえて、蒲郡北地区の将来の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」の検討を進めています。第5回ワークショップでは、再配置プランを評価するための評価項目について検討を行いました。

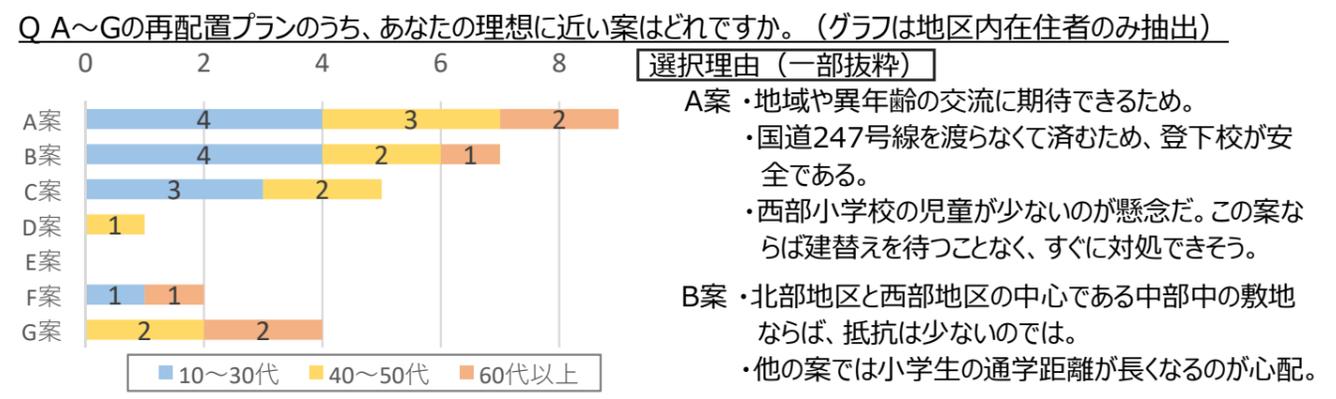


オープンハウスを開催しました！
 10/4・6・8 保育園（北部・西部・中部）
 10/9 フィール蒲郡店
 9/25～10/14 WEBアンケート
 再配置プランについてご意見をいただきました。

10/31開催
第5回ワークショップ
 再配置プラン案を比較するための評価の方法について意見交換を行いました。

オープンハウスを開催しました。

蒲郡北地区にお住まいの皆さまへワークショップの様子をお伝えし、ご意見を伺うための取り組みとしてオープンハウス（パネル展示型説明会）を開催しました。いただいたご意見はワークショップ参加者とも共有し、検討の参考としました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、WEBアンケートも併用して実施しました。たくさんの方のご参加まことにありがとうございました。（各案の概要は最終ページに掲載しています。）



その他、子どもの数が減っているため統合の必要性は理解できるが、それぞれの地区の思いがあるのでどの案とは選べないといったご意見もいただきました。

再配置プラン案の評価検証

第5回ワークショップでは再配置プラン案を比較するため、これまでのご意見をもとに事務局が作成した評価一覧表(案)を用いて検討を行いました。評価項目や評価方法について修正点や配慮すべき点などのご意見をいただきました。

評価一覧表(案)

視点	評価項目	A案	B案	C案	D案	E案	F案	G案
① 地域での活動・交流のしやすさ	ア 学校施設を地域活動で利用しやすい施設配置となっているか。(公民館等と学校の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	イ 地区役員などの住民負担は軽減されるか。(構成員の大きさで評価)	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
	ウ 多世代・外国人など多様な人が集まり、交流できる施設配置となっているか。(施設の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	エ 歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設配置となっているか。(公民館等の位置関係で評価)	○	○	◎	○	○	○	○
	オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか。(小学校の位置関係で評価)	△	△	△	○	△	△	△
② 学校教育環境のあり方	カ 適切な学校規模が維持されているか。(小学校)(20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価)	◎	◎	○	○	◎	◎	◎
	キ 適切な学校規模が維持されているか。(中学校)(20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価)	○	△	△	△	△	○	○
	ク 通学の利便性は確保されるか。(小学校)(小学校の周辺年少人口で評価)	○	○	△	○	△	○	○
	ケ 通学の利便性は確保されるか。(中学校)(中学校の周辺年少人口で評価)	○	△	◎	△	◎	△	○
	コ 子ども達に手厚い支援が行えるような施設配置となっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	サ 子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか。(小学校と公民館等の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	シ 小中連携した教育が期待できる施設配置となっているか。(小中学校の位置関係で評価)	○	○	○	○	◎	○	◎
③ 子育てしやすい環境づくり	ス 子育て関連施設は近接して配置されているか。(保育園と小学校の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	△	◎	△
	セ 児童クラブを利用する子ども達が安全に移動できる施設配置となっているか。(児童クラブと小学校の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ソ 児童館は安心して子どもを遊ばせられる場所となっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	タ 地区内の保育園で低年齢児保育は実施されているか。	○	○	○	○	○	○	○
④ 高齢者の居場所づくり	チ 高齢者が歩いて通える施設配置となっているか。(公民館等の周辺高齢者人口で評価)	◎	◎	○	○	△	◎	◎
	ツ 高齢者が地域の子ども達のために活躍できる施設配置となっているか。(公民館等と小学校・保育園の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	○	◎	○
	テ 中高年・高齢者が日常的に交流できる居場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
⑤ 安全・安心	ト 災害時に子ども達がまとまっており、安心できる施設配置となっているか(小学校・中学校・保育園の位置関係で評価)	◎	○	◎	○	○	◎	○
	ナ 災害時に避難しやすい施設配置となっているか。(避難所の周辺人口で評価)	△	△	○	△	△	△	○
	ニ 津波や河川の氾濫等が考慮された施設配置となっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ヌ 子ども達の通学の安全が確保されているか。(交通安全)	◎	◎	△	○	○	○	◎
	ネ 子ども達の通学の安全が確保されているか。(防犯)	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 利便性の確保	ノ 自動車アクセスしやすい施設配置となっているか。(駐車場の確保可能性で評価)	◎	◎	○	◎	○	◎	○
	ハ だれもが利用しやすい施設が整備されているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ヒ 各地域から利用しやすい施設配置となっているか。(地域間の公民館等の配置バランスで評価)	○	○	○	○	○	○	○
	フ 多様な活動ができる施設は整備されているか。(施設の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑦ 将来負担の縮減	LCC(ライフサイクルコスト)試算における50年間の縮減額(単位:百万円)	8,394	13,038	9,055	5,494	11,871	7,253	8,245

視点①～⑥については、評価項目ごとに(◎:現状より向上、○:現状維持もしくは一長一短がある、△:現状より低下)の3段階で評価しました。視点⑦については、LCC(ライフサイクルコスト:建設だけでなく修繕・運営など維持管理に係る費用を含んだ生涯費用)の試算における50年間の縮減額にもとづき評価しました。

◎の個数	13	12	10	9	8	12	10
○の個数	13	12	14	16	14	13	16
△の個数	2	4	4	3	6	3	2

① 地域での活動・交流のしやすさ

- 近所付き合いが減っていきめやけんか、家庭内暴力などの問題が増えていると思う。近隣住民の人間関係、交流が重要であり、その点ではB・C・E案が良いと評価している。
- 【ア】機能ごと、地域ごとに交流のしやすさは変わるので、すべてにおいて複合化するといつて◎がつくことに違和感がある。
- 【オ】「伝統的な地域のつながり」という点では小学校校区に紐づくと思うのでD案以外△になるのは納得できる。
- 【ア・オ】西部小敷地に中部中を配置するF案は、B案と比較し、中学校が西部地区に配置されることで交流場所として機能し、付加価値が高くなる。

② 学校教育環境のあり方

- 通学の利便性や学校規模については、教育委員会の規準で進めればよい。
- 【カ】「適正」を児童数だけで評価してよいのだろうか。小規模もしくは大規模のどちらが適正であるかは児童により異なるため、判断が難しい。
- 【ク】交通安全の観点から距離だけではなく歩道や信号機の有無、道路の狭さなどの道路状況も考慮する必要がある。
- 【サ】地域での活動のしやすさと子ども達の利用しやすさは違うと思う。

③ 子育てしやすい環境づくり

- 【ス】E案の△評価については納得である。

④ 高齢者の居場所づくり

- 地域には今回の検討対象施設に限らず「居場所」がある。対象施設に限って、高齢者の居場所を評価することに違和感がある。高齢者に限らず、子どもや中年層も公園やスーパー、神社などで各々居場所を作っている。
- 【チ】高齢者が歩いて通える距離に公民館があることは重要であるため、E案の△は当然である。
- 【チ】生活者の視点からは、単純な距離の問題だけでなく、愛着もあるので評価方法として疑問を感じる。
- 【チ】「高齢者が歩いて通える距離」で評価しているが、友人や仲間がいるからと中央小地区の方が小江公民館を利用するなど、距離だけでは利便性は測ることができないと思う。
- 【チ】A・B案は西部地区から見ると公民館等の高齢者が利用する施設へのアクセスが悪くなる。
- 【テ】評価がどの案も○となっており、差がない。それでよいのか。

⑤ 安全・安心

- 【ナ】C案など中央小が他校に統合される場合に、中央小地区の避難所が確保されるのか不安だ。評価は○だが、心配はないのか。
- 【ナ】A・B案は西部地区から見ると、交流施設が近づく、災害時の避難機能の面でもよくないので△は妥当だと思う。
- 【ヌ】通学時に国道247号線を通らないため安心と評価しているが、247号線は歩道が整備され信号もあるので、むしろ安全だと思う。整備されていない路地の方が心配だ。
- 【ヌ】A案は西部小が統合され通学距離が長くなるため通学の危険性が増す。評価が◎であることに疑問を感じる。
- 【ヌ】C案は中央小が分割され247号線を横断する通学はなくなるが、中央小学区から蒲南小へ通う場合にも交通量の多い危険な道路の横断がある。
- 【ヌ】B・G案は北部小・西部小が中部中に移転するため、両校の周辺道路の危険が低下するため◎とのことだが、通学路が長くなる児童もあり、歩道が整備されていない箇所もあるため、1か所に集まることで安全だという評価は正しくない。
- 【ヌ】信号機や歩道の有無、道幅の広さなどで評価するとよい。

その他

- 各案一長一短あるので、7つの案からいいとこどりして1つにまとめるとよい。
- 地区単位で何らかの交流機能があるとよい。
- 将来の子ども達への負担軽減を目的とした施設統合は仕方ないと思う。
- 複合化することで運動場が狭くなるなど、利用者にとって不便が生じないようにしてもらいたい。
- 学校は様々な子ども達と交流できる規模であることが大切だと思うので、人数が少なすぎるのは避けたほうが良いと思う。
- 小規模校の良さを実際に感じている。手厚く子供を見てもらえると感じたことが引越しの後押しにもなった。
- 学校規模の大小にかかわらず教育は平等であるべきなので、小規模だからといって他と統合されるなど特定の地域が犠牲にならないようにしてほしい。
- 小中一貫教育を導入するならば、地域連携やいじめの観点から不安を感じている人もいるので、私立校など自由に選択できるようにする方がよい。
- いずれの配置案を見ても歩けない距離ではない。児童の健康・運動の観点からもスクールバスは必要ないと思う。
- スクールバスは距離の観点だけでなく、防犯の点からも検討してもらいたい。